

学級通信「竹の子」



佐久間俊彦

「天に向かってスクスクと伸びて
いく竹の子。子供の一人一人も竹
の子のように伸びていってほしい。」

（学級経営と学級通信）

教師の初任者にとって、教科指導に
重点がかかり、「学級経営」の理論と
実践については弱さがあり、自信に欠

けることが多いのではないか。
教育が、人間を育てる作用であると
いうことから、一人一人の子供の心が
開かれた学級、協力し合いはげまし合
える人間関係の安定した学級の中でこ
そ、教科指導も生徒指導も有效地に果た
される。つまり「学級経営」がそこに
あることを知った。また、「学級経営」
には両親の理解と協力が重要な役割
をもつことが欠かせないことも知った。

学級通信「竹の子」は、さぐり求め
の学級経営経験三年目に試みた、学校
と家庭の相互理解と協力を強化する家
庭通信にはじまり、経験九年目の現在
まで約千二百号を数えてきた歩みの一
端である。

（学級通信「竹の子」の主な内容）

- 主として学級から家庭へ
- ・学校の教育目標や方針
- ・学級経営の方針や努力点
- ・児童会や学級会活動

状況

- ・家庭の理解と協力の要望。など
- ・家庭から学級へ
- ・家庭から学校又は学級への要望



伸びよ「竹の子」一グループ活動

・自由投稿

（学級通信「竹の子」の編集と発行）

- ・できるだけ毎日発行する
- ・更半紙半裁の固定用紙
- ・ガリ版刷りができるだけ読み易く、文字の大小・カットのくふう

反応や効果については、児童や両親
へアンケート調査を試みているが、か
なりの目的達成の状況をうかがうこと
ができる。また、両親から意見や要望
感想や作品など数多く投稿されている
ことなどからも、学校・学級に対する
理解や協力を得ることができるようにな
つたと考えられる。

近ごろは、グループ学習なども活発に
なってきたと自負している。

農村地域における学校教育に対する
関心や理解について、情報活動は今後
においても計画的、継続的に行うこと
の必要性を痛感している。

（郡山市立高野小学校教諭）

「両親の声」

- ・……今までなく学校を身近に感じ
ることができます。……
- ・……学校と家庭とが結びつき、子
供と話し合うことが多くなりました。
・……夕食後のひととき、竹の子は
家庭の話題の主役です。……。